

講義「確率・統計」

中心極限定理の例

担当

静岡大学工学部機械工学科 岡本正芳

中心極限定理

○ 確率変数 x_1, \dots, x_n が互いに独立に同一の確率分布に従うものとし、その平均・分散を μ, σ^2 とする。このとき、 x_1, \dots, x_n の平均 $x = (x_1 + \dots + x_n) / n$ の示す確率分布は、 n が十分に大きければ、正規分布 $N(\mu, \sigma^2/n)$ となる。

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi \frac{\sigma^2}{n}}} \exp\left(-\frac{(x - \mu)^2}{2 \frac{\sigma^2}{n}}\right)$$

2項分布

さいころを6回振って、1の目が何回出るかといったベルヌーイの試行を実行する。

1の目が出る確率 $p = \frac{1}{6}$

確率関数

$$p(x) = {}_6C_x p^x (1-p)^{6-x}$$

実際の試行結果の一部

1万回分の結果

	x_1	x_2	x_3	x_4	x_5	x_6	x_7	x_8	x_9	x_{10}	x_{11}	x_{12}	x_{13}	x_{14}	x_{15}	x_{16}	x_{17}	x_{18}	x_{19}	x_{20}
1	1	0	1	1	0	3	1	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0	0
2	1	1	0	0	1	2	2	1	4	2	0	0	2	0	1	2	0	0	1	2
3	0	0	0	2	1	0	2	0	0	2	2	0	1	1	1	1	3	0	0	1
⋮																				
498	1	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3	0	1
499	2	2	1	1	0	1	0	0	2	1	3	1	0	0	0	1	3	1	1	1
500	0	1	0	1	2	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	3	0	1

1万個のデータとしての処理

平均

$$\bar{x} = 0.9985$$

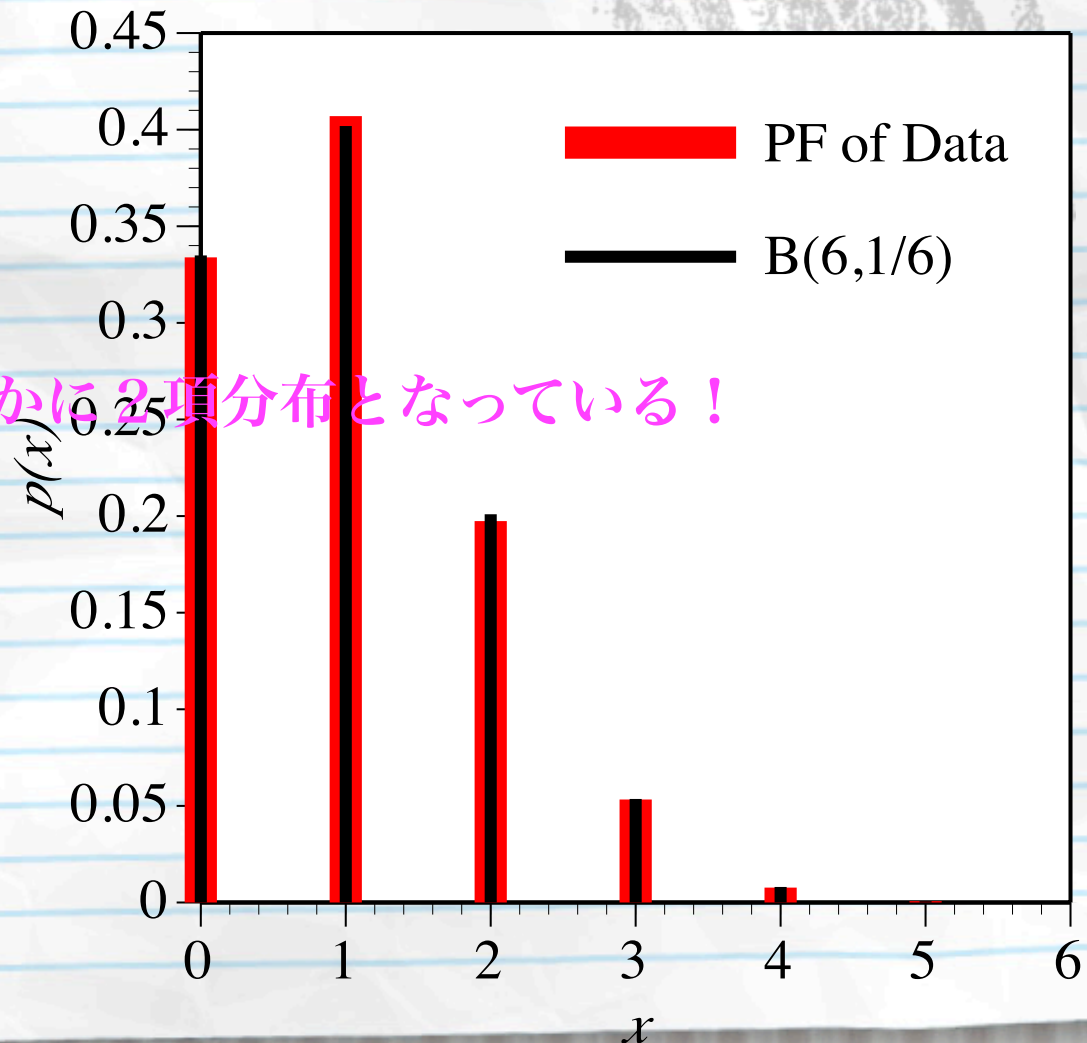
$$\mu = np = 1$$

分散

$$s^2 = 0.824984$$

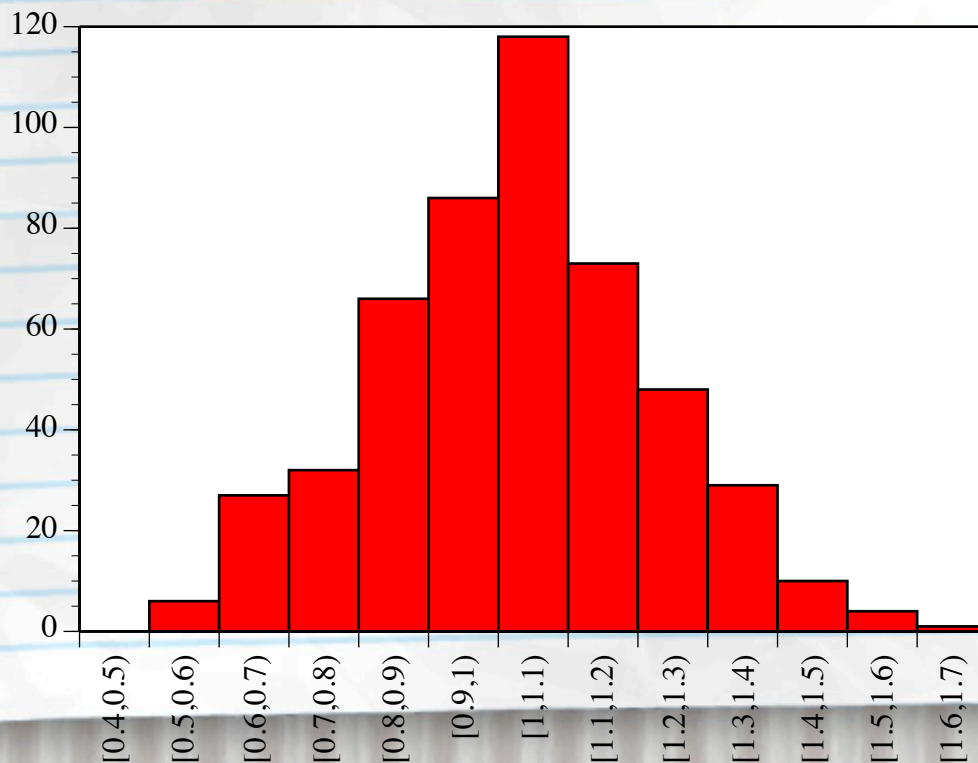
$$\sigma^2 = np(1-p)$$

$$= \frac{5}{6} = 0.8333$$



20 データ列としての評価

- 新たな確率変数 $X = \frac{1}{20} \sum_{i=1}^{20} x_i$
- 新たなデータ数は500個ある。



中心極限定理の検証

平均

$$\bar{X} = 0.9985$$

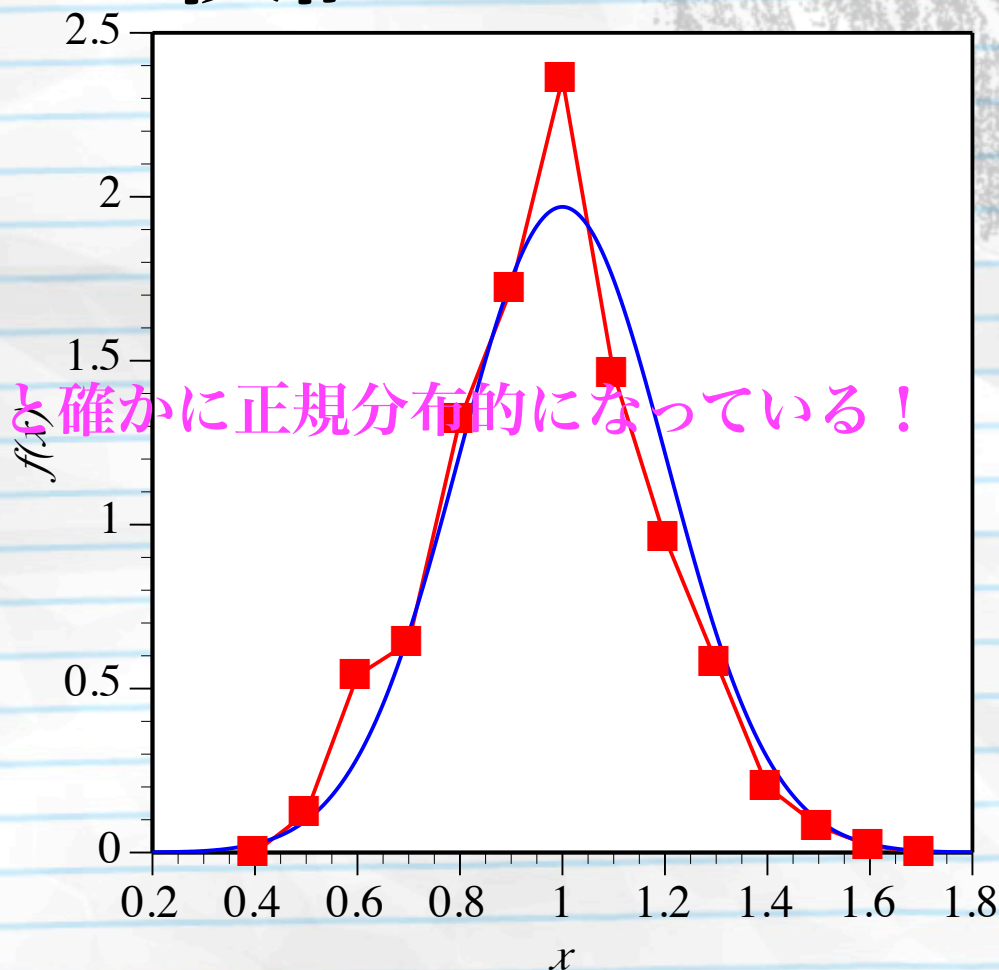
$$\mu = 1$$

2項分布が集合すると確かに正規分布的になっている！

分散

$$s^2 = 0.039682$$

$$\sigma^2 / 20 = 0.04166$$



ポアソン分布

- まれな現象を表す確率モデル
- $\lambda = 3$ のポアソン分布を考える。
- 確率関数

$$p(x) = \frac{3^x}{x!} e^{-3}$$

実際の試行結果の一部

1万回分の結果

	x_1	x_2	x_3	x_4	x_5	x_6	x_7	x_8	x_9	x_{10}	x_{11}	x_{12}	x_{13}	x_{14}	x_{15}	x_{16}	x_{17}	x_{18}	x_{19}	x_{20}
1	0	0	3	5	2	4	3	4	2	3	5	3	2	4	2	1	5	3	4	1
2	4	3	4	2	6	0	1	3	2	2	3	5	5	3	4	2	4	2	4	1
3	3	3	3	5	2	5	6	3	0	2	5	3	3	3	4	4	7	6	3	6
498	5	1	3	4	2	4	9	3	5	3	1	0	3	3	1	2	3	3	4	4
499	5	4	2	4	3	5	5	2	3	3	5	3	4	5	2	1	2	2	3	3
500	2	4	1	6	5	0	2	2	2	5	0	2	1	3	1	4	2	3	1	2

1万個のデータとしての処理

平均

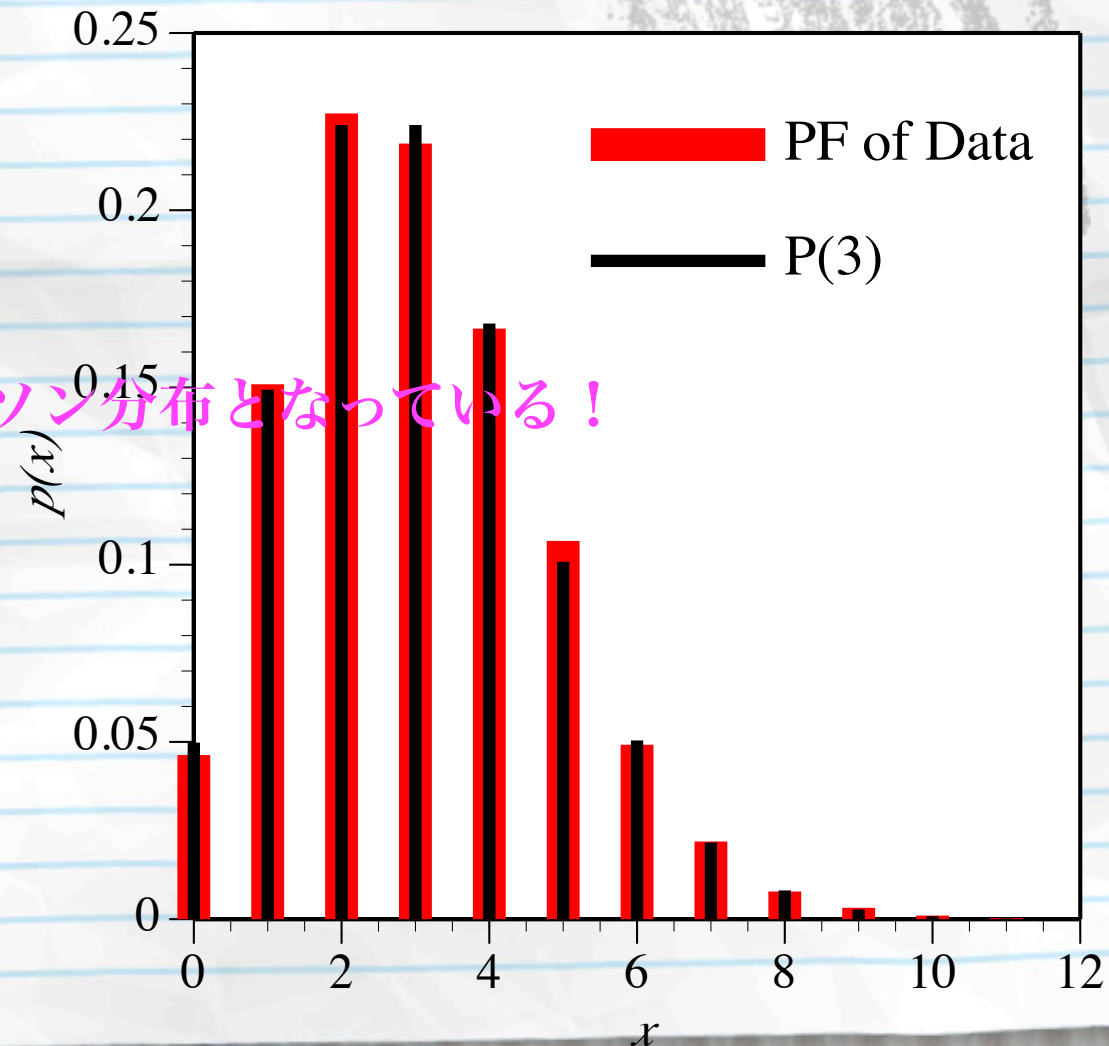
$$\bar{x} = 3.0148$$

$$\mu = \lambda = 3$$

分散

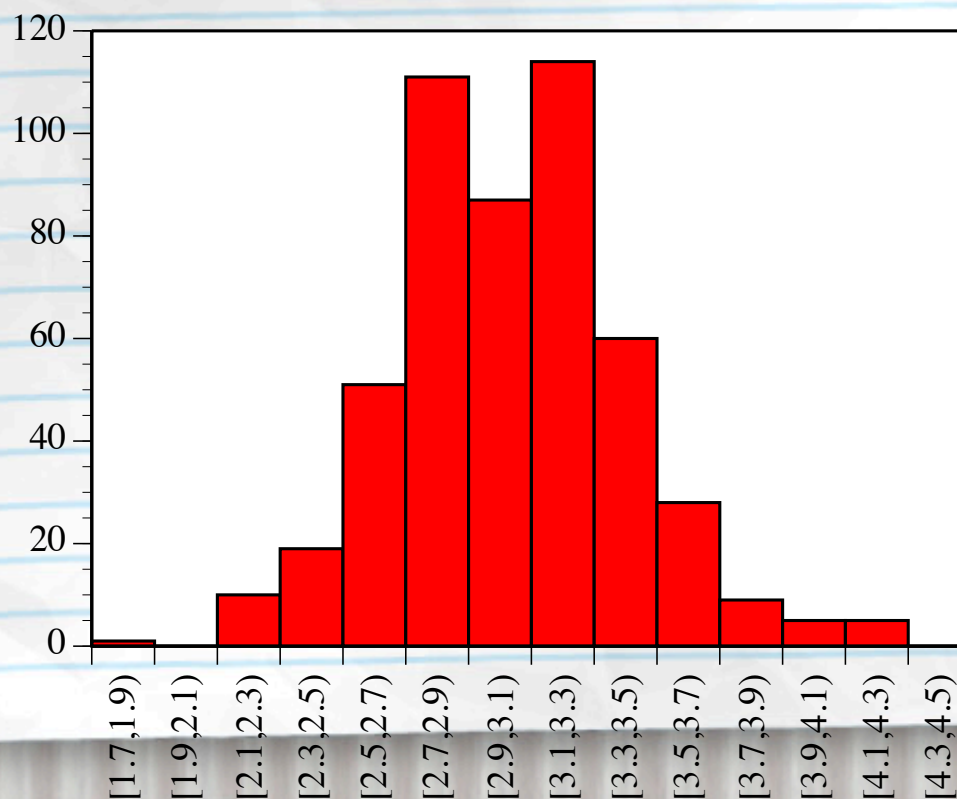
$$s^2 = 3.01238$$

$$\sigma^2 = \lambda = 3$$



20 データ列としての評価

- 新たな確率変数 $X = \frac{1}{20} \sum_{i=1}^{20} x_i$
- 新たなデータ数は500個ある。



中心極限定理の検証

平均

$$\bar{X} = 3.0148$$

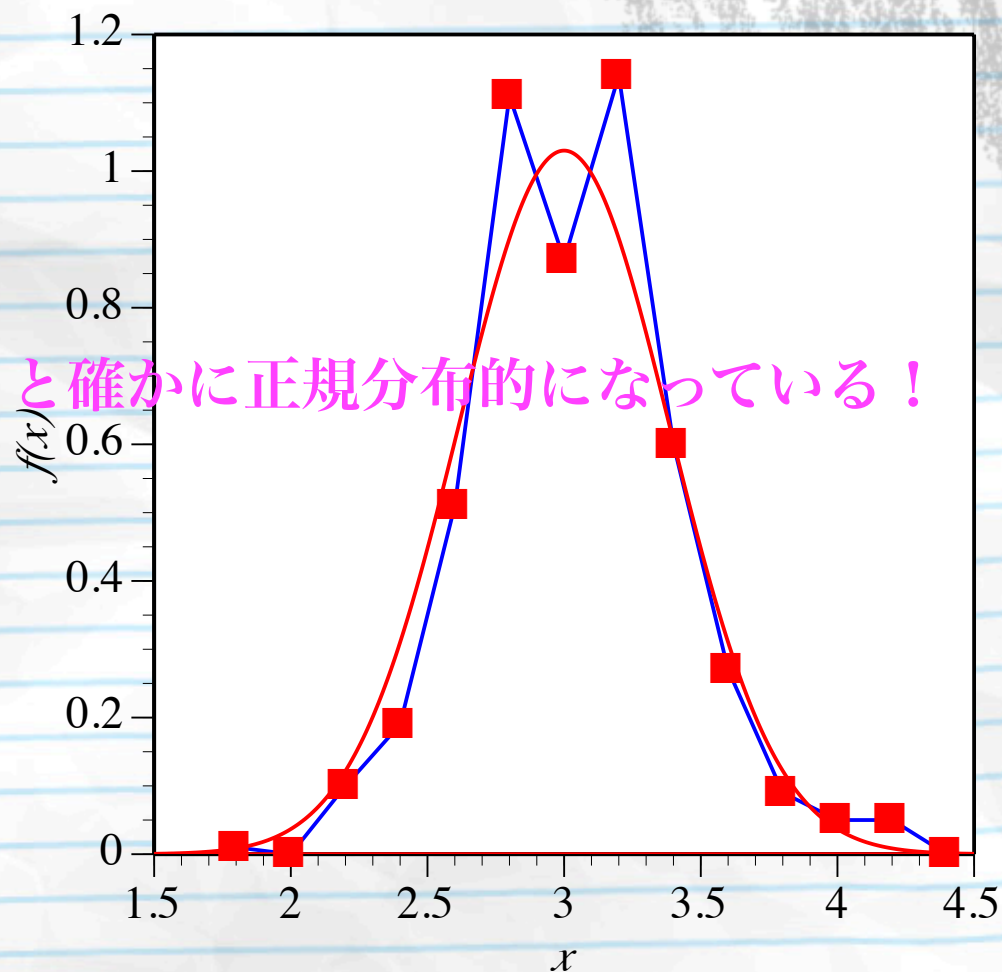
$$\mu = 3$$

ポアソン分布が集合すると確かに正規分布的になっている！

分散

$$s^2 = 0.135651$$

$$\sigma^2 / 20 = 3 / 20 = 0.15$$



一様分布

○ 0 から 1 の間の実数が発生する確率が一樣である連続分布

○ 確率密度関数

$$f(x) = \begin{cases} 1 & 0 \leq x \leq 1 \\ 0 & x < 0, x > 1 \end{cases}$$

実際の試行結果の一部

2万個の結果

0.221700372640043

0.507814623415470

0.908958502113819

0.361026324331760

•

•

•

0.217536337673664

0.487971879541874

2万個のデータとしての処理

平均

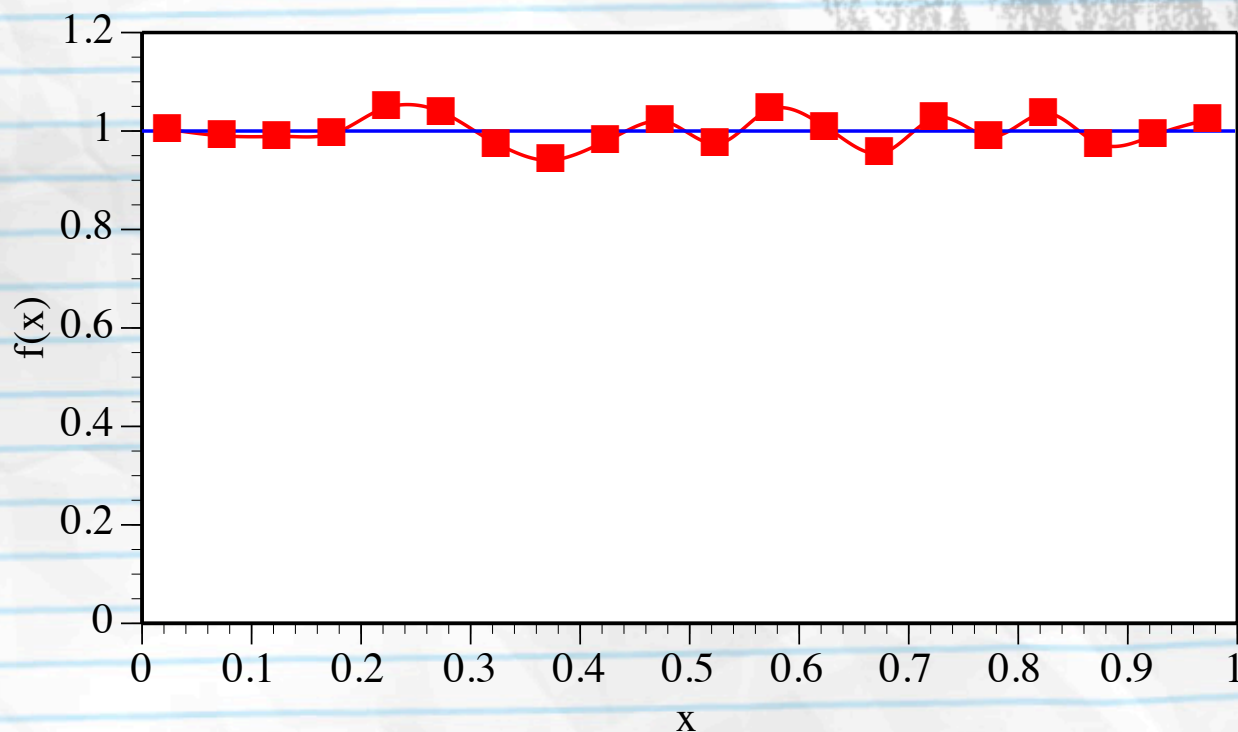
$$\bar{x} = 0.50022$$

$$\mu = 0.5$$

分散

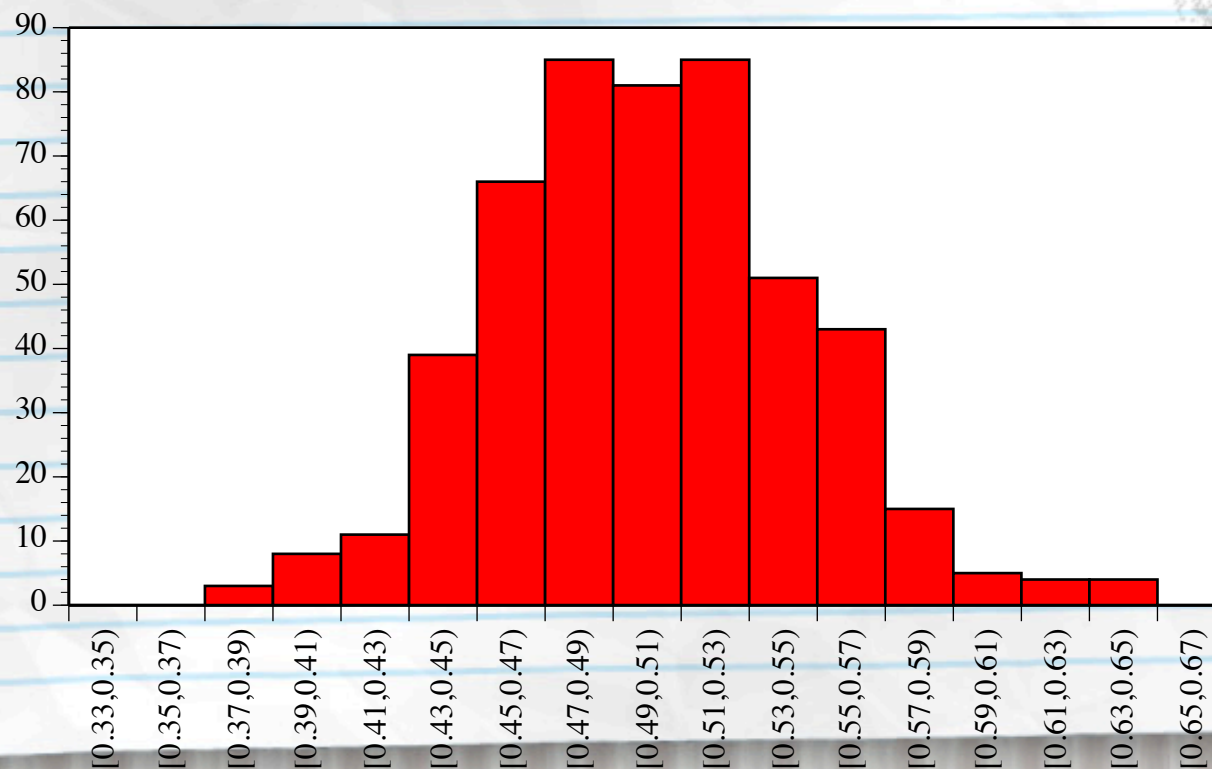
$$s^2 = 0.0835086$$

$$\sigma^2 = 0.08333$$



40 データ列としての評価

- 新たな確率変数 $X = \frac{1}{40} \sum_{i=1}^{40} x_i$
- 新たなデータ数は500個ある。



中心極限定理の検証

平均

$$\bar{X} = 0.50022$$

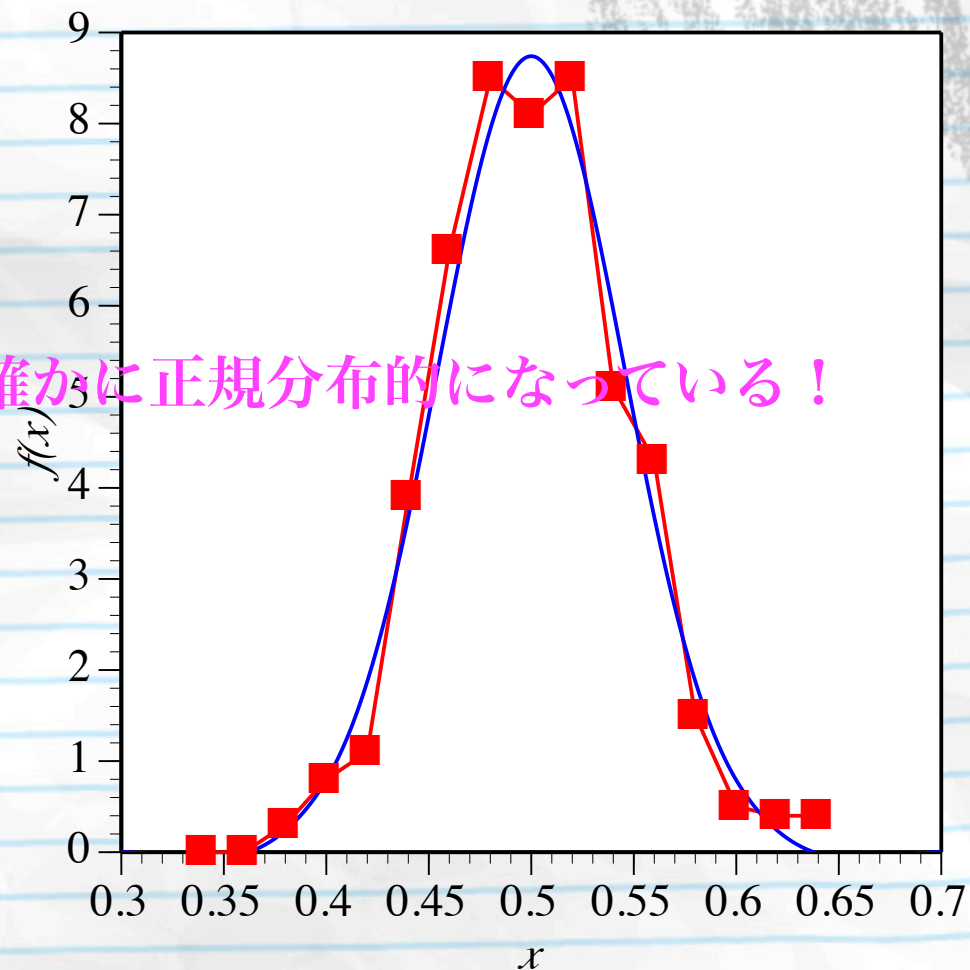
$$\mu = 0.5$$

一様分布が集合すると確かに正規分布的になっている！

分散

$$s^2 = 0.00198816$$

$$\sigma^2 / 40 = 0.002083$$



n に対する依存性

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi \frac{\sigma^2}{n}}} \exp\left(-\frac{(x-\mu)^2}{2 \frac{\sigma^2}{n}}\right)$$

$f(x)$

n が増加していくと分布幅が狭まって平均 μ の値を示す δ 関数へと移行する

